

## 小学校における外国語活動・外国語科の授業づくり

尾上 利美（和歌山大学教育学部）・森川 英美（和歌山市立藤戸台小学校）

岩脇 留華（和歌山市立藤戸台小学校）

### 1. 研究課題について

新しい小学校学習指導要領が令和2（2020）年4月に完全実施となり、新しく教科となった5・6年生の外国語科で新教科書を用いた授業が各地で始まっている。和歌山市教育委員会は、令和2年度から5年度に使用する小学校外国語科の教科書として『Junior Sunshine』（開隆堂）を採択し、市内各小学校では、本教科書を用いた授業が展開されている。本研究課題は、新しい学習指導要領、新教科書のもとで行われる外国語科および外国語活動の授業づくりについて実践的に検討し、授業実践事例の蓄積を目的とした。

### 2. 取り組みについて

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策にともなう和歌山市立学校の長期臨時休業を経て、6月1日（月）に授業再開、6月15日（月）に通常授業が開始された。通常の年度よりも約2か月遅れての授業開始で、授業時数確保や学校行事等の再調整を行いながら、感染拡大防止に最大限の注意を払うというこれまでになかった対応もあり、各学校の先生方は、非常に多忙かつ様々な場面で創意工夫を求められる1年であったと思う。本研究の共同研究者である森川先生・岩脇先生も、このような多忙な日々の中から時間を捻出し、学習指導案を何度も検討し、授業を実施し、協議会を開催された。研究代表者の尾上も、学習指導案の検討、授業参観、協議会への参加という形で関わった。以下は主な取り組みの日時と内容である。

- 9月24日（木）夕方～（@和歌山大学） 学習指導案の検討
- 10月12日（月）夕方～（@和歌山大学） 学習指導案の検討
- 10月16日（金）3時間目（@藤戸台小学校）岩脇先生 公開授業（5年4組）
- 10月16日（金）16：00～17：00（@藤戸台小学校）協議会
- 11月6日（金）夕方～（@和歌山大学） 学習指導案の検討
- 11月11日（水）5時間目（@藤戸台小学校）森川先生 研究授業（5年2組）
- 11月11日（水）16：00～17：00（@藤戸台小学校）協議会

藤戸台小学校と和歌山大学が非常に近いところにあるという立地を活かし、上記の取り組みにおいて、お互いに円滑に行き来することができた。

### 3. 岩脇先生（5年4組）と森川先生（5年2組）の授業実践報告

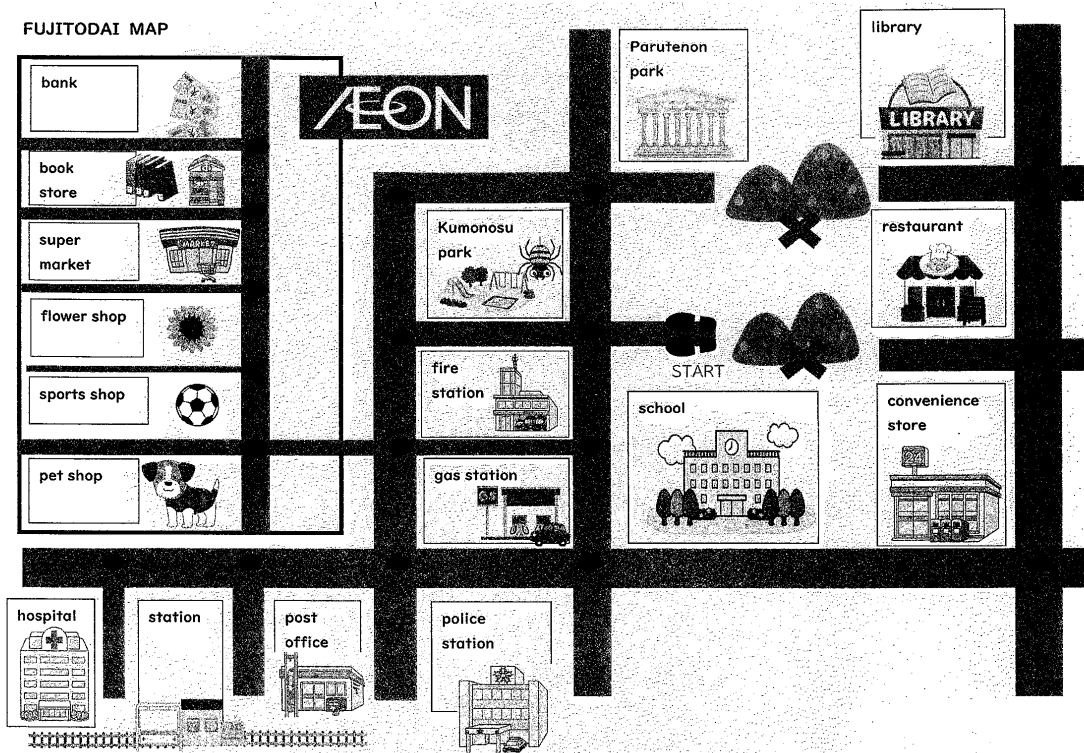
①『Where is your treasure?～宝物への道案内をしよう～』の実践について(5年4組)

Lessn5 Where is your treasure? を教材に、他者に配慮しながら宝物へと道案内をすることを単元目標として取り組んだ。

今回授業を作る上で、意識的に行った手立てが二つある。一つ目は、「相手がきちんと目的地までたどり着けるよう、自分が道案内をする」という目的意識を持たせるための手立てである。教科書の分かりやすい地図で授業を進めることも考えたが、実際に藤戸台の地図を用意することで、子供たちの道案内への意欲を引き出すことができるのではないかと考えた。簡単な略地図ではあったが、建物の位置等を尾上先生にご助言いただき、イオンの建物の中に色々なお店を入れる等、子供たちが楽しめるよう工夫した。

二つ目は、英語の聞き取りや地図を読むことが苦手な児童に対する手立てである。昨年『This is my favorite place～お気に入りの場所を紹介しよう～』では、お気に入りの場所までコマをすすめてたどり着く活動をしたが、進むにつれ自分が向いている方向が分からなくなり、混乱してしまう児童がいた。このことを踏まえ、「体の向きを変える」というイメージを子供に持たせることが重要になると尾上先生にご助言いただいた。そこで混乱を防ぐため、ペットボトルキャップに矢印を書き、方向を確認することができる手立てを考えた。一人一つのコマを操作することで、向きを確かめながら道案内を聞き、目的地に辿り着けた子が多くいた。

子供たちは、藤戸台の地図を使うことで家族とよく行く場所等を選び、意欲的に道案内に取り組んでいた。道案内に必要なと思うペットボトルキャップやコマンドメモ等の道具を使い、投げ出さずに道案内に取り組む姿がみられた。協議会では、相手を意識する上で地図を見て道案内をする活動だったので、相手の理解を図りながらするのは本時では難しかったことやワークシートにコマンドメモを書く場所があったが、必要ではなかったのではないかという意見が出た。今後もクラスの子供たち全員が、スムーズに活動できるような手立てを考え、意欲的に取り組める授業づくりを目指していきたい。



②『This is my hero! こんな近くにマイヒーロー』の実践について（5年2組）

Lesson6 My Hero を教材に、自分があこがれている人（ヒーロー）についてクラスで紹介し合うことを単元目標として取り組んだ。

今回授業者が意識して取り組んだことが二つある。一つは、ヒーローを友達や家族等身の回りの人に限定したことである。前回この単元に取り組んだ際、有名人や好きなキャラクターを自由に選ばせた結果、英語が難しくなりすぎ、書いた英語をただ言い合うだけのやり取りになってしまった。今回は身近な人に対象を限定することで、単元で学習した英語表現を中心にスピーチ原稿を作成させるようにした。そうすることで、理解を伴った英語でのやり取りが行えるようになると思った。このことを踏まえ、「ヒーロー＝身近な人」というイメージを子供に持たせることが重要になってくると尾上先生にご助言いただいた。そこで、小学校時代の恩師と母親の二人をヒーローに選び、モデルスピーチとして子供たちに紹介することにした。これから習う表現を用いた理解しやすい英語にするため、尾上先生に添削していただいた。単元導入で授業者がヒーロー紹介を行うと、子供たちは熱心に聞き、どんな人なのか、どんなことが得意なのか等理解しようとする姿がみられた。この結果、ヒーローを身近な人から選び、紹介する活動に、子供たちはスムーズに取り組めたように感じた。

二つ目は、研究授業の活動設定である。授業者は、子供たちがインタビューした内容をもとに、第三者の得意なことを他者に紹介できるようになることをねらいとしていた。そこで、研究授業では二つの活動を設定した。一つ目がペアで互いに得意かどうか尋ね合う活動で、二つ目がインタビューをもとにペアの得意なことを他のグループの子に伝える活動である。ここで一番悩んだ点が、得意なことを尋ねたり答えたりする表現である。得意なことを聞く時は、本来 *Are you good at ...ing?* の表現を用いるが、*Junior Sunshine5* では、*be good at* (名詞) の表現しか載っておらず、疑問形については扱っていなかったのだ。動名詞の表現は児童にとって難しいことが予想されたので、今回は既習表現である *can* の表現に *very well* を付け、*Can you ... very well?* と質問させることにした。また、質問をされた際、*Yes, I can.* (得意) / *So so.* (できる) / *No, I can't.* (できない) の3パターンで答えるようにした。これらの表現が英語的に適切かどうか、子供たちが無理なく使えるかどうか、尾上先生と何度も相談し、決めていった。さらに、子供たちがどの表現を使えばよいか一目でわかるように、下のようなチャートを示すこともご助言いただいた。



Yes, I can.  
can... very well



So, so.  
can...



No, I can't.  
can't...

子供たちはこのチャートのおかげで、インタビュー活動をスムーズに行うことができた。しかし、コロナ対策の影響で授業時間が40分になっていたこともあり、得意なことを紹介するという二つ目の活動まで時間配分がうまくできなかった。協議会では、活動を二つ行う際、どちらをメインにするか、比重を考えて取り組むことが課題として挙げられた。また、ワークシートの構成がわかりにくく、その説明に時間がかかってしまったことも問題であった。以上の点を踏まえ、今後の授業づくりに活かしていきたいと思う。